

訪問インタビュー第1回

千葉県建築家協会会長 宇野武夫氏に聴く

去る7月17日(木)午後、JSCA千葉・広報委員4名(富島・加藤・筈谷・安田)は千葉県建築家協会・宇野武夫会長の会社を訪問して、2時間にわたりご自身のこと、作品のこ



と、構造設計者との交流についてお話を伺ったので報告いたします。

安田:今日は本題的には、建築家協会とJSCAの親睦はどのように計れるか、お互いに困っていることはないかということをお話したいと思います。最近、耐震改修の仕事をとった意匠事務所が、構造設計者の調達ができずに指名停止になったことが複数件あります。このような事件が発生する事の背景、対策について後で伺いたいと思います。さて、せっかくお訪ねしましたので、まず宇野さんの略歴からお願いします。

宇野:私は、大学に行ってもせんから市川工業高校が最終学歴です。経済的にそういうチャンスがなくてね。僕の親父は大工さんで大工の息子だから子供の頃から、家をつくる人になると思っていました。中学卒業した頃から、人が考えた建物でなく自分で考えて作らないといけないなあ、どこか行かないと、ということで市川工業の建築科に行った。それが始まりです。

筈谷:お父さんの手伝いもしましたか?

宇野:もちろん、屋根上って野地板をトンカチで打つとか、かんなを削るとか。中学の頃は、数学が得意だったかな。

加藤:デザインと数学とは一致するとかよくいう話で、芸術家って数学が得意。

宇野:市川工業高校の担任が構造の実務者でもあったので。卒業する頃は、意匠か構造どっちでもいよいよねって状態でしたが、他にデザインを教える先生が、榎本設計っていうのが千葉にあるから、そこに行ってみなよって言うんで、夏休みなんか模型を手伝いに行ってた。給料の多寡で会社を決める気もないし、大手に行く気もなく3年間だけ、どこか小さい所で勉強したいって思ってた。(中略)

僕が入った時には11人位居たかな。数年経った頃、東金中学校という指名コンペがありましてね、それに当選しまして担当することになった。

富島:まだこういう仕事して間がないのにですね。

宇野:5,6年ですね。

筈谷:昭和何年頃ですか?

宇野:昭和46年。一級の免許は27歳だったかな。最短でとれました。コンペはそのころ2,3個勝てましたね。たとえば東金中学校は新建築(雑誌)に取材された。麻生公民館とかもね、いくつかの本に紹介されました。

安田:そんな若くて、もう立派な仕事されてるんですね。

一同:うーん、すごい。

宇野:もうボチボチいいかなと思ったけど、当分出ちゃいけないって。それで聴講に行かせればやめないだろうって、某大学

に聴講に行かされるんですが、、、あんまり効果がないんだよね。設計者がいないのに設計を教える、設計したことのない先生がライトがどうのって言ってもね、、、。ただスライドだけはいっぱいある、これは自分でスライドを見ちゃった方がはやい(笑)。それからヨーロッパに行ったんですよ。行ったって(留学じゃなく)旅行ですよ。たまたま吉阪隆正さんの「ユネスコ協会の若い建築家の教育の旅」みたいな名のツアーがありましてね、二週間くらいかな。イタリアとかに滞在した。やっぱり自分で見なきゃダメだなと思ってそれから20回位。(この後トリノの教会についての話は、文筆及ばず中略。)

ヨーロッパの近代建築史を全部見てやろうって思ったの、自分の目で。これ見た、あと見てないのはこれだ。これ見なくちゃいかんって。医者で言うと、外科医でも年間200例以上やってないと。数見る、こなす。建築も空間体験して、自分で空間を考えて、数を見なきゃ。本物を見なきゃ。

吉阪隆正先生と

旅をしてそれは勉強になったんじゃないかな。

富島:20代でヨーロッパに飛び出して行くなんで。行きたくても行けなかったですよ。

宇野:雇われた頃はね、竹中、清水、そういう連中は1万5千円だった。事務所は9千円だった、かつこ悪くて言えないよ。

そんな中で借金して行っただ。

加藤:自分に対しての先行投資ですね。

宇野:いや投資でなくて、ただ見たい。聴講行ってもつまんない、勉強はしたい、それで思いついた。

(中略)

安田:ではそろそろ40代、50代の頃を。

宇野:自分で始めたのは42です。なんでここでやってるかっていうとね。医者が居ないところは無医村っていいですね。弁護士が居ないところは無法地帯。建築家がない町はどういうところかね。生まれてお世話になって、ここに住んでるわけですよ。建築家はいないとまずいよって。人口6万人。無医村とか言われたんじゃないかこわるいし。袖ヶ浦から出ないようにして、ここに事務所をつくらうって。

建築単体でなくて、向こう3軒両隣くらいのことを考えること、自分たちの生活空間の基本。これがよくなると。単体がよくても、町並みはよくなるとね。

安田:設計作品に病院が多いですよ。

筈谷:恵まれてますね。

安田:値段が高そう?(笑)。

宇野:ははは、そう見えるかもしれないが苦勞もあるのよ。

富島:病院で特殊な分野で誰でもできるモノじゃないもの。

宇野:病院もたまたま縁があつて。

加藤:山王病院(千葉市)もそうですよね、入り口のところが印象的ですよ。

安田:看護学校のファサードはなにか教会的な印象があります。

宇野:ああ、あれは教会っていうよりもね、ナースのキャップです。そのイメージです。もっとも教会もやってますけどね。

